

2012年 社長(木村 康)年頭挨拶について

新年明けましておめでとうございます。

本日行われた、当社社長 木村 康のグループ社員に向けた年頭挨拶を、以下の通りお知らせいたします。

<要旨>

1. 石油業界を取り巻く事業環境

東日本大震災は、日本のみならず世界にも大きな衝撃を与える、人類史上稀に見る巨大災害となった。2011年は、この震災が、人々の心持ちを変え、また、世界のエネルギー政策に再考を促す「きっかけとなった年」として、後々まで記憶されることになるだろう。

本年の日本経済は、復旧・復興に向けた需要が先導するかたちで、年率1.5%程度の成長が見込まれているが、円高・ドル安・ユーロ安が続くなか、電力供給問題、国内産業の空洞化加速、雇用環境の厳しさ、構造的ともいえるデフレの進行など、将来に向けての重石(おもし)は残されたままである。

原油価格は105ドルから115ドルのレンジで推移するものと見込まれるが、アメリカの対イラン制裁の動向によっては、市場に緊張が走ることも予想される。

国内マーケットは構造的な需要減少が続いており、復興需要等の増加は見込まれるものの、本年も燃料油合計での減少を見込んでいる。

2. 2012年の重点課題

本年は、JXグループ中期経営計画の最終年度であり、当社のミッションは基本戦略を確実にクリアすることである。もう一つ、忘れてはならないことは、震災からの復興に向けての取り組みであり、単なる復旧にとどまらず、より災害に強い設備・システムの構築に取り組む。

また、我が国はエネルギー政策のあり方そのものをゼロから見直す必要に迫られている。「新しい日本のエネルギーの姿」、すなわち「エネルギーのX(みらい)」に向けて、社員一人一人の叡智を結集して、積極的に発言・行動し、取り組んで欲しい。

私は、こうした取り組みを現す2012年のキーワードを「完達、そして飛躍」とした。

当社の基本戦略である「劇的な事業変革実現」のゴールに向けて、最終コーナーを回ったところである。目標は達成しなければ意味がなく、目標を完全に達成してこそ、次の頂(いただき)が見えてくる。目標の達成がなければ、次の飛躍も、CS(お客様満足)も望めない。目標の完達に向けて、全社一丸で取り組んでいきたい。

3. グループ社員への期待

私たちの仕事は、一人が、八面六臂(はちめんろっぴ)の活躍をして生み出した成果だけでは成り立たない。商品開発する人、生産する人、商品をお客様に届ける人のみならず、これらの活動を様々な側面からサポートする全ての部門の人と人のつながり、それぞれの人のこめた想いが、お客様に「付加価値」となって届けられる。この一人一人の想いを積み重ね、「次に襷(たすき)をつなぐ」ことこそが、お客様の信頼を勝ち取ることにつながり、「ENEOS」そして「JX」のプレゼンスを高めるための道である。

そして、私が、当社発足当時より常々言っている「3つの意識」(当事者意識、プロ意識、変革意識)を、常に心に持つことが、「襷をつなぐ」ためにも、本年のキーワードである「完達、そして飛躍」を実現するためにも不可欠である。立ち向かってくる難題に正面から取り組み、真剣に議論し、そして解決して欲しい。

以 上